

農学研究科の教育目標及び3つのポリシーについて

【教育目標】

山形大学大学院の教育目標を踏まえ、農学研究科では幅広い知識とともに深い専門性を身につけ、想像力を豊かに発揮できる高度な知的能力を持った人材を育てることを目標としています。

【修了認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)】

山形大学大学院の修了認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)のもと、農学研究科では、以下のような知識・態度・能力を獲得した学生に「修士」の学位を授与します。

1 高度な専門職従事者としての知識と技能

- (1) 多様化・複雑化した社会の要請に対応できる高度な専門的知識と技術を身に付けている。
- (2) 専門職従事者としての倫理観と責任感を持ち、コンプライアンス遵守の神を得ている。

2 課題解決能力・新領域の開拓能力

- (1) 研究、調査、開発等の創造的な事業に従事するための実践的な能力を有している。
- (2) 研究成果を公表するためのプレゼンテーションやディスカッションの能力を身に付けている。

【教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)】

山形大学大学院の教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)に沿って、農学研究科では、学生が体系的かつ主体的に学習できるように教育課程を編成し、これに従って教育を行います。

1 教育課程の編成・実施等

- (1) 多様化・複雑化した社会の要請に対応できる高度な専門的知識と技術を身につけるための教育・研究環境を用意する。
- (2) 各専門分野におけるより高度な知識と幅広い知識を修得し、研究、調査、開発といった創造的な事業に従事するための実践的な能力を身に付けるための科目を配置する。

(3)各専攻において定める専門的知識と能力が身につくよう、各専攻のカリキュラムポリシーに従い科目を配置する。

2 教育方法

学部の教育課程で学んだ知識を基礎に、各専門分野におけるより高度な知識を修めるとともに、研究、調査、開発といった創造的な事業に従事する上での実践的な能力を養うために、指導教員、副指導教員による個別指導を軸とした、きめ細かい教育を展開する。

3 教育評価

- (1)授業科目の学習成果の評価においては、筆記試験、討論への参加、レポート作成、プレゼンテーションなどの方法を用いて評価する。
- (2)修士論文審査および最終試験について、定められた判定基準に基づき厳格に評価する。

【入学者受入れの方針(アドミッション・ポリシー)】

農学研究科は、時代の要請に応じて充実・強化の道を歩み、現在は「生物生産学専攻」、「生物資源学専攻」及び「生物環境学専攻」の3専攻によって構成されています。

農学研究科は、農学の持つ多面性と専門性に対応できる複眼的で総合的な判断力やバランス感覚を有する人材を育成するとともに、多様化・複雑化した社会の要請に対応できる高度な専門的知識と技術を有し、研究、調査、開発といった創造的な事業に従事するための実践的な能力を有する高度な専門人材の育成を目指しています。

また、農学研究科の求める学生像は以下のとおりです。

◆求める学生像

各専門分野や学際領域の研究の発展・深化、さらには多様化・複雑化する社会の要請に対応するため、さらに高い専門的知識を得ようとする人材を求めています。

以上のような観点から各専攻では、次のような学生を求めています。

修士課程

(生物生産学専攻)

生物生産学専攻は、技術者や研究者を中心に、多くの有益な人材を輩出してき

ました。本専攻は、安全な農畜産物の持続的生産やそれを担う農業経営、地域の活性化等の研究領域においてより高度な知識を修めるとともに、実践的な能力を養うため、指導教員による個別指導やフィールドワーク等を軸としたきめ細やかなプログラムを展開しています。

また、生物生産学専攻の求める学生像は以下のとおりです。

◆求める学生像

- 知的好奇心が旺盛で実験や研究・調査が好きな人
- フィールドを通じて体得した環境保全型生物生産や限られた資源を活かす食農環境マネジメントに関する基礎的な知識をさらに深めたいと思う人
- 地域貢献や国際貢献について理解と意欲がある人

◆入学者選抜の基本方針

上記の【求める学生像】で示す能力等を有する人を多面的・総合的に評価するため、以下の方法により選抜します。

- (1) 一般入試（筆記試験（専門科目）、口頭試問と志願者から提出された出身大学で作成された成績証明書等を総合して判定）
- (2) 社会人入試（筆記試験（小論文）、口頭試問と志願者から提出された出身大学で作成された成績証明書、志望理由書、研究計画書、研究業績概要書を総合して判定）
- (3) 外国人留学生入試（筆記試験（専門科目）、口頭試問と志願者から提出された書類を総合して判定）
- (4) 外国人留学生推薦入試（志願者から提出された書類を総合して判定）
- (5) 推薦入試（志願者から提出された出身大学の成績証明書、推薦書、志望理由書等の書類を参考に実施する口頭試問の結果により判定）

(生物資源学専攻)

生物資源学専攻は、食品・応用生命科学コースと植物機能開発学コースの2コースから構成され、各コースと専門分野において、微生物・動物・植物等の生物資源を対象とし、バイオテクノロジー等の先端的手法を駆使した開発・改良と有効利用について専門的な教育・研究を行っています。

また、地域社会や国際社会における諸問題を解決し、人類社会の進歩と福祉に貢献できる独創的な科学技術開発を担う研究者や技術者を養成するため、各指導教員による個別指導を軸としたきめ細やかなプログラムを展開しています。

生物資源学専攻の求める学生像は以下のとおりです。

◆求める学生像

- 生命現象の解明、バイオテクノロジーなどの新技術や応用に興味のある人
- 有用な生物資源の開発と改良、生物による環境浄化、食物の品質保持や健康機能性の解明やその応用に興味のある人
- 探求心を持ち、物事に自発的、積極的に取り組む人

◆入学者選抜の基本方針

上記の【求める学生像】で示す能力等を有する人を多面的・総合的に評価するため、以下の方法により選抜します。

- (1) 一般入試（筆記試験（専門科目）、口頭試問と志願者から提出された出身大学で作成された成績証明書等を総合して判定）
- (2) 社会人入試（筆記試験（小論文）、口頭試問と志願者から提出された出身大学で作成された成績証明書、志望理由書、研究計画書、研究業績概要書を総合して判定）
- (3) 外国人留学生入試（筆記試験（専門科目）、口頭試問と志願者から提出された書類を総合して判定）
- (4) 外国人留学生推薦入試（志願者から提出された書類を総合して判定）
- (5) 推薦入試（志願者から提出された出身大学の成績証明書、推薦書、志望理由書等の書類を参考に実施する口頭試問の結果により判定）

(生物環境学専攻)

生物環境学専攻は、技術者や研究者を中心に、多くの有益な人材を輩出してきました。

本専攻は、各専門分野におけるより高度な知識を修めるとともに研究、調査、開発といった創造的な事業に従事する上での実践的な能力を養うため、指導教員による個別指導を軸としたきめ細やかなプログラムを展開しています。

また、生物環境学専攻の求める学生像は以下のとおりです。

◆求める学生像

- 問題解決のために自発的な行動を実践してみたい人
- 討論を通じて自己表現を実践してみたい人
- 身につけた問題解決プロセスを社会に還元したいと考えている人

◆入学者選抜の基本方針

上記の【求める学生像】で示す能力等を有する人を多面的・総合的に評価するため、以下の方法により選抜します。

- (1) 一般入試（筆記試験（専門科目）、口頭試問と志願者から提出された出身大学で作成された成績証明書等を総合して判定）
- (2) 社会人入試（筆記試験（小論文）、口頭試問と志願者から提出された出身大学で作成された成績証明書、志望理由書、研究計画書、研究業績概要書を総合して判定）
- (3) 外国人留学生入試（筆記試験（専門科目）、口頭試問と志願者から提出された書類を総合して判定）
- (4) 外国人留学生推薦入試（志願者から提出された書類を総合して判定）
- (5) 推薦入試（志願者から提出された出身大学の成績証明書、推薦書、志望理由書等の書類を参考に実施する口頭試問の結果により判定）